

新しく中学1年生になる君たちへ——

号外

朝日小学生新聞 特別増刊号

WILLナビnext vol.3

首都圏

中学・高校6年間のナビゲーター

目の前の患者さんのために
 ベストを尽くす。
 「あなたの専門家」で
 あり続けたい。



総合診療医

鈴木 富雄さん

医学部研究編

WILLナビnext特設サイト https://willnavi.jp/next_2019_east/

ウィルナビ

検索



【発行・編集】朝日小学生新聞社 〒104-8433 東京都中央区築地5-3-2 朝日新聞社新館9F ☎03-3545-5225 【企画取材・制作】(株)広真アド 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-3-12 アルク高田馬場4F ☎03-3360-6032

目指すなら世界の頂点

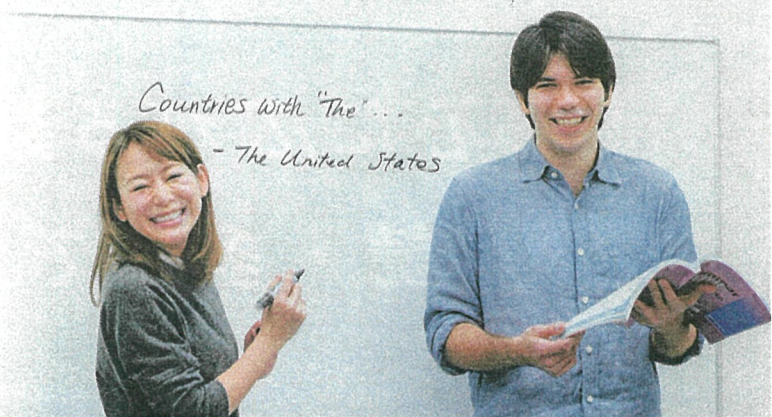


J PREP

齊藤塾

渋谷校・自由が丘校

大学入試改革で英語入試は4技能を試すTOEFL型に変わります。皆さんが大学を受験する頃には4技能入試が定着しており、「英語で考え、発信する能力」を求められます。J PREP 齊藤塾は「話す」「書く」「聴く」「読む」に加え、「考える」力を身につけ、東大をはじめとした国内難関大学や、世界のトップ大学で通用する英語力を養成します。



2019年度 入塾説明会

会場:渋谷校本館(J PLAZA)
 全レベル対象(新小5~新高3)

1 12日・13日・19日・26日
 (各日とも15:00~16:30)
 20日・27日
 Jan. (各日とも11:00~12:30, 15:00~16:30)

2 2日・9日・16日 (各日とも11:00~12:30, 16:00~17:30)
 3日・10日・11日・17日 (各日とも11:00~12:30, 15:00~16:30)
 Feb. 21日・23日・24日 (ただし21日のみ 18:00~19:30)

3 2日 (11:00~12:30, 14:00~15:30, 17:00~18:30)
 Mar. 3日 (11:00~12:30)

参加申し込みは、J PREP 齊藤塾ホームページより先着順で承ります。自由が丘校入塾ご希望の方も、渋谷校での説明会にご参加ください。

Q j prep Phone:050-6861-5155

新中学生へのメッセージ
Interview

目の前の**患者さん**のために ベストを尽くす。 「**あなたの専門家**」で あり続けたい。

「総合診療医ドクターG」「みんなの家庭の医学」など、テレビの医療系番組でおなじみの鈴木富雄・大阪医科大学特別任命教員教授。総合診療の第一人者として、全国の病院で、研修医や医学生を対象に「出張カンファレンス」を実施するなど、幅広く活動されています。中高時代のどのような学び、体験が、現在の活躍につながったのか、振り返っていただきました。

総合診療医

鈴木 富雄さん



昆虫が大好きで 採集、観察、飼育に熱中

—子どもの頃に熱中したこと
は何ですか。

鈴木 小学生の頃から昆虫が大好きで、「昆虫博士」になりたいと思っていました。家族旅行に行くとき、風景はそっこの下ばかり見て歩いているような子どもでした。夏休みには、さまざまな昆虫を採集して、プロ並みの標本を作り、同級生たちに驚かせていました。高学年になると、単純な所有欲は薄れ、生きている姿をそのまま観察するようになりました。人間と異なる姿をしているものが動くことが不思議で、しかもアリなら行列を作り、イモムシならモゾモゾと葉っぱを食んでいくなど、昆虫ごとに独特の動きをするので、見飽きることはありません。そのうちにカブトムシやシヨウジョウバエ、タイコウチなどの飼育に興味に移り、土壌、温度、容器などを工夫するようになりました。専門的な図鑑で調べ、自分なりに研究して、科学コンクールで発表したこともあります。こうして早くから、研究マインドのようなものが育まれていった気がします。

—中学に入学してからも、生き物への興味は続いたのですか。

鈴木 いえ。中学入学後は、剣道部に入り、練習に明け暮れるほどの腕前になったのですが、その分、勉強は怠けるようになり、成績は落ちていきました。とはいえ、剣道をやったことは貴重な経験だったと感じています。1つのことに真剣に打ち込

めば、きちんと成果が出るということを体感することができたからです。

専門分化された 医療ではなく 「人」そのものを診たい

—医学部をめざそうと思った
きっかけは何ですか。

鈴木 読書が好きで、多様なジャンルの本を読む中で、社会的な問題に興味を持つようになりました。当初は法曹関係をめざそうと考えていました。けれども、テレビドラマで、弁護士と検事では、被告に対する見方がまったく異なることに疑問を抱き、人が人を裁くことは怖いと感じるようになったのです。その点、医師ならば、生か死かだけの分かりやすい世界であり、医学部を志望することにしました。その根底には、子どもの頃から、生き物に対する興味が強かった影響もあったと思います。ただし、いま振り返ると、あまりにも単純な動機でした。終末期医療においては、生と死は簡単に分けられるのではなく、そこに医師が抱えるジレンマもあるわけですが、当時はまだ、そんなところにまでは思い至りませんでした。

—大学時代は、どんな学びに興味を持ったのですか。

鈴木 いくつかの紆余曲折を経て、外科系ではなく内科系に進むことにしたのですが、大きな悩みに直面しました。名古屋大学附属病院のような大所帯では、臓器別に専門分化されていたのです。教授に「どの臓器を専門にしたいのか」と問われ、困惑しました。もちろん、高度な医

心に広がる数学の世界を！
多読・多聴で生きた英語を！

中学1年～大学受験
科学的教育グループ

SEG®

新中1 春期講習

1/15(火) 13:00よりお申込受付開始!

インタビューの詳細は「WILLナビ」へ! ▶ https://willnavi.jp/next_2019_east/



大阪医科大学
特別任命教員教授 **鈴木 富雄** さん

Tomio Suzuki

1961年愛知県生まれ。名古屋大学医学部卒業。市立舞鶴市民病院、名古屋大学医学部附属病院総合診療部を経て、2014年大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座特別任命教員教授および同附属病院総合診療科長に就任。「総合診療医ドクターG」「みんなの家庭の医学」など、テレビ番組にも多数出演。

療を提供する使命がある大学病院では、特定の臓器を究める医師も必要です。しかし、私が医師をめざしたのは、あくまで生きている「人」そのものを診たかったからです。一生、同じ臓器だけを対象にするわけにはいかないと焦りました。

——それで総合診療医の道に転換されたんですね。

鈴木 そう簡単にはいきませんでした。当時の日本では、総合診療は根づいておらず、講座・教室を設けている医学部もほとんどない状況だったからです。私にとって幸運だったのは、アメリカで研修を積んで帰国した先輩医師たちから、「アメリカでは総合診療、家庭医療の歴史が古く、その専門家が第一線で活躍している」という話を聞いたことです。「総合診療は決して単なる浅く広いだけの分野ではない。1つの専門性として確立されている」という言葉に励まされ、「総合診療こそが、私がめざすべき世界だ」との確信を得ることができました。

——どのようにして総合診療医としてのキャリアを積んだのですか。

鈴木 総合診療の臨床研修の「御三家」の一つと評されていた舞鶴市民病院で研修を受けました。この病院では、アメリカの臨床教育家たちを招いて、グローバルスタンダードの総合診療が学べる「大リーガーズ」と呼ばれる研修が行われていました。この研修を通して学んだことは、問診と身体診察を大切に、できるだけ「早く」「安く」「確実に」「安全に」医療を提供することです。確かに検査をすれば、さまざまなことが分かりますが、身体的な負担だけではなく金銭的な負担もかかります。最近では、検査に頼りすぎて、患者さんを直接診ずに診療を終える医師もいるようです。私はそんな医師にはなりたくありませんでした。舞鶴市民病院で、問診に加えて視診、聴診、打診、触診と五感をフルに使って、患者さんの心と身体の声を聞く姿勢を徹底的にたたき込まれたことが、

私の総合診療医としてのベースになっていきます。

患者さんが生きがいを感じて暮らす人生を支える

——今後、総合診療の重要性は高まるのでしょうか。

鈴木 日本の高齢化率は、2025年に30%、2060年に40%を超えるとされています。高齢者になると、多くの病気を抱えます。今後の医療では、患者さんが多くの病気を抱えていながらも、やりがい、生きがいを感じながら暮らす人生を支えていくという意識が大切になるでしょう。

私はそのことを、約30年前に、診療に携わっていた舞鶴市民病院の加佐診療所で、経験的に学びました。加佐は舞鶴市の西側の広大な山村地区であり、当時すでに高齢化率30%を超えていました。つまり、これから日本で起こることが、その時点で生じていたわけです。けれども、意外なことに、加佐では独り暮らしの高齢者が皆、元気に暮らしていました。心臓病の高齢者も、ニトログリセリンという薬を飲みながら、農業を続けていたのです。そこで私が気づいたのは、病気だからと引きこもっていたのではなく、高齢者は幸せになれる。社会の一員として生きがいややりがいを持って働き続けることが大切なのだということでした。

よく「総合診療医と

は、どんな医師なのか」と聞かれることがあります。私は「あなたの専門家です」と答えています。それは、患者さんの心と身体の声を聞き、一人ひとりの医療にベストを尽くすという意味だけではありません。目の前の患者さんが生き生きとした生活を送れるために、患者さんの家族や地域や社会背景などにも目を向けて、しっかりと支えていく覚悟を持つということなのです。

成功体験があれば次に挑戦する意欲がわく

——中学生へのアドバイスをお願いします。

鈴木 1つのことに集中して打ち込めば、必ず目標が達成できることを、中高時代にぜひ体験してください。そうした成功体験があれば、新たなステージにチャレンジする意欲がわいてきます。私の場合は、それが剣道でした。もちろん、勉強の目標であつてもいいのですが、できれば勉強以外で、たとえばスポーツを目標にするとベターだと思います。勉強は基本的に一人でやるものなので、特に受験期になると、ともすれば自分さでできるようなればいいという考えになりがちです。それに対して、スポーツは一般にチームワークが重要です。個人スポーツでも相手へのリスペクトが自然に生まれてきます。自分一人の力だけではなく、回りに助けられたという思いが、自分自身と仲間を信じ、どのような困難があつても乗り越えていけるという、未来に向かう力となるのです。

SEGは1981年に、中学生対象の数理専門塾として創立されました。以来、8,000名を超える卒業生を東大・京大に送り出し、3,000名を超える卒業生を国立医学部に送り出しています。

新中1対象 入会説明会 予約は不要です

1/20 (日)	1/26 (土)
2/3 (日)	2/9 (土)
2/10 (日)	2/11 (月祝) ほか

*時間等、詳細はWebをご覧ください。

資料請求・お問い合わせ

<http://www.seg.co.jp/>
TEL 03-3366-1466
(電話受付時間 月~土/13:00~21:00)
〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-19-19

中学1年~大学受験 **SEG**
科学的教育グループ

数学Extremeコース体験授業 2月開講!

プレ春期・中1英語TPRS体験講座 2月開講!